

試 験 地 設 定

(様式1)

湿地帯の更新技術について

区分 任意

日田 営林署

開発課題	(落羽松を利用した国有林内の植地地の有効利用)				期間	自56年度	至57年度
	為霜小の原野が一部には、除地して湿地帯が2.80haあり現在は森林としての利用が適当とはいえず、この地を落羽松の植栽に森林として育成してゆく試みである。						
開発目的							
設 定	場 所	営 林 署	担 当 区	国 有 林	林 小 班		
		日 田	小石原	畑ヶ尻	11. 15		
	数 量	面 積	数 量				
		0.12 ha	直挿 220本 美苗 9本				
	設 定 年 月 日	昭和56年5月15日	終 了 年 月 日	昭和56年5月16日			
	担 当	営 林 局	計画 課 技術開発係				
営 林 署		経営 課 造林 係					
地況及び 気 象	標 高	方 位	傾 斜	基 岩	土 壌 型	土 性	
	600	南	5°	砂岩	BF	推積土	
	深 度	堅 密 度			地 位		
	60cm上	軟過湿			スギ	ヒノキ	

林 令	林 種	樹 種	混交率	胸高直径	樹 高	材 積	本 数	相対照度	下層植生
								100	
全 体 計 画	56	設定	雑種	地際	植付	挿付			
	57		保育(下刈)		活着状況	生長調査			
	58		"	"	"	"			
	59		"	"	"	"			
	60		"	"	"	"			
	61		"	"	"	"			
	62		"	"	"	"			
	63		"	"	"	"			
	64		"	"	"	"			
	65		"	"	"	"			
	66		"	"	"	"			
	67		"	"	"	"			
	68		"	(除伐)					
	69		"						
	70		"						
71		"							
72		"							
73		"							
74		"							
75		"							

- 記載要領
- 区分は指示、自主、任意課題別とする。
 - 全体計画欄は年度別、実施事項及び目標、また、林試等の指導関係を記入する。

試験地設定

区分 任意

日田 営林署

(様式2)

実施計画

設定方法

小石原町内にも部内に除地といはる湿地帯に落羽松を植栽して
森林として育成して行くのである。

1. 山引苗活着試験と挿木育苗試験
直挿と葉生苗の700ヶ所に分ける。
直挿700ヶ所と25ヶ所に紫根促進剤使用ヶ所と葉生苗700ヶ所に分ける。

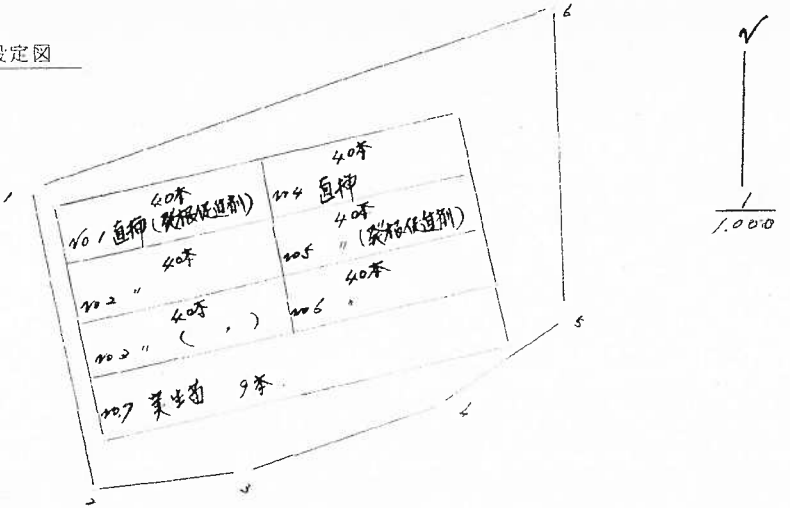
2. 生長率調査

植栽後10年間毎年調査 植栽後5年毎調査

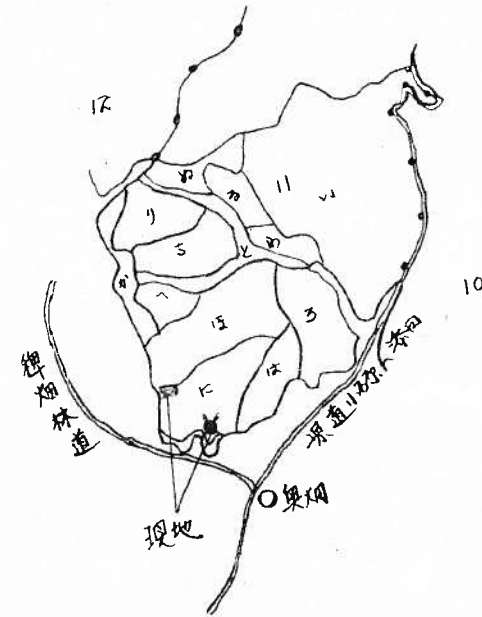
作業方法

直挿ヶ所は各試験区に40本挿す
山引苗ヶ所は普通植栽法を採用
保育作業に必要は造林作業に準ずる。

試験設定図



試験地位置図



記載要領 1. 実施計画は設定方法及び作業方法等具体的に記入する。

試験経過記録

区分 任意

白田 営林署

(様式4)

昭和56年10月	<p>榊木得苗調査、活着率調査。 直挿し活着 0 山引苗 100% 活着 直挿しについては採根時期を失っていた(5月採根)にて全滅したものと見られる。 多湿の所では土壌の通気性がほとんどないことから遮理の付いた方が 簡易排水溝及び客土の必要がある。</p>
昭和57年3月	<p>林木育種場にて榊木 250本採取し 炭根促進剤に1昼夜浸し挿す 簡易排水溝作設 及び客土業行 (客土の層 2.5cm)</p>
昭和57年7月	<p>榊木得苗調査 直挿 200本のうち 96本はついでに発芽しているものの 炭根しているが不明 (3本採取りの結果 炭根付の山引苗 2本枯死)</p>
昭和57年10月	<p>榊木得苗調査、活着調査、生長量調査。 直挿し 全滅 山引苗 7本活着 生長量 平均長 平均長 21系統の直挿しが失敗に終わったこと、多湿の所での直挿しは遮理を判断する。今後は苗木養成のうえで行 (早稲農林高校に榊木苗木養成の成功例があり 視察と果生苗の採取が必要)</p>
昭和58年7月	<p>生長量調査 生長量 平均長 平均長 0.9cm 57cm</p>
昭和58年10月	<p>生長量調査 生長量 平均長 平均長 0.9cm 68cm</p>
昭和59年10月	<p>生長量調査 生長量 平均長 平均長 82cm</p>

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

試験経過記録

区分 任意

日田 営林署

(様式4)

昭和6年10月 中長学利産及修容(刊)
中長学 利産 1.5 m
中長学 修容 1.7 m

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

試験経過記録

区分 任意

日田 営林署

(様式4)

養生苗成長量調査表

	昭和56年度		56		57		58		59		60		61		62		63		64		65		70		75			
	植付時		1年目		2		3		4		5		6		7		8		9		10		15		20			
	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長	径	長
No. 1	1.1	45	1.1	51	1.3	64	1.4	78	1.4	96	1.4	152																
2	0.8	41	0.8	46	0.9	54	0.9	66	1.0	83	1.0	95																
3	0.6	22	0.6	25	0.6	30	0.6	37	0.6	47	0.7	57																
4	0.5	18	0.5	22	0.5	27	0.5	34	0.6	44	0.6	58	0.7	76														
5	0.8	50	0.8	55	0.9	62	1.0	78	1.1	87	1.1	105																
6	0.7	38	枯損																									
7	0.7	54	0.7	61	0.8	73	1.0	82	1.1	95	1.4	109																
8	1.0	60	1.0	64	1.1	74	1.1	86	1.2	99	1.8	132																
9	0.5	27	枯損																									
計	6.7	270	5.3	227	6.0	401	6.5	475	6.9	575	10.4	750																
平均径	0.7	41	0.7	48	0.8	57	0.9	68	1.0	82	1.5	107																
平均長			4.8	0.1	8.8	2.07	10.5	9.05	14.2	0.5	25.0																	

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

評価および普及計画

区分 任意

日田 営林署

(様式5)

昭和56年度の反省

・ 挿木得面試験が失敗した原因

1. 時期を失した (5月挿木)

2. 多湿場所では空気の流通が悪く 活着できなかった

以上のことから翌年度は 3月に挿木の簡易排水溝は 砦土の上で行う

昭和57年度反省

3月に挿木(有種場)して簡易排水溝施設、砦土(厚さ15cm)をしたものの 砦土の量が足りなかったため 多湿場所と同じ状態であったので全滅

以上2年間の試験から 直挿は悪理と判断される。

今後挿木養成を行う 再度実行。

昭和58年度反省

山引角の本は生育しているものの 上長肥大成長と悪い。

(様式6)

(撮影日 5/6/4)

状 況 写 真

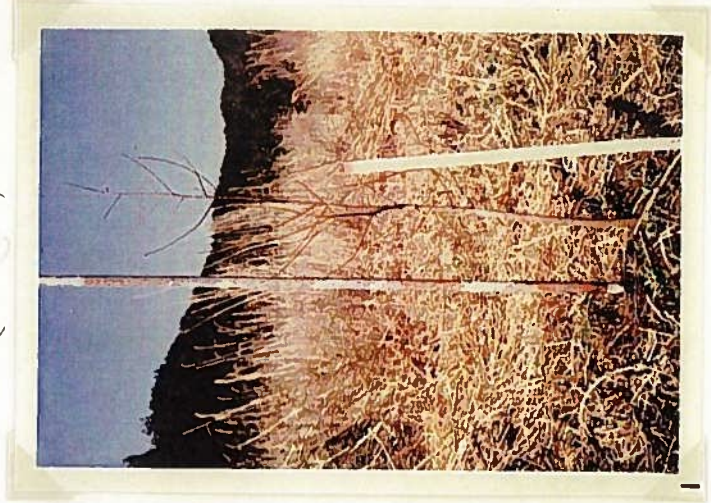
区 分 仕 裁

日 田 営 林 署

(全 景)



(11 号)



(20 号)



(20 号)



状 況 写 真

区分 住野

日田 営林署

(様式6)

(No. 4)



(No. 5)



(No. 7)



(No. 8)



状 况 写 真

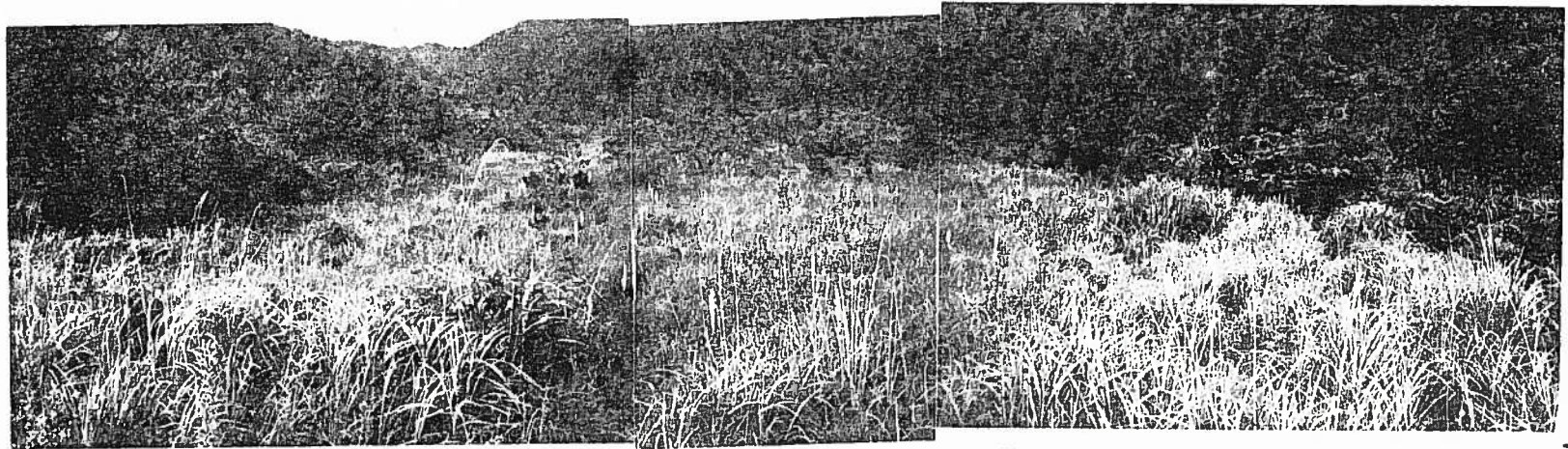
区分 任意

日田 営林署

(様式6)

栽培地 瑞河 小石原地区の一部

畑作範囲約 1000坪
面積 0.12ha



木 260本
畑 9本

状 況 写 真

区分 任意

日 田 営 林 署

(様 式 5)

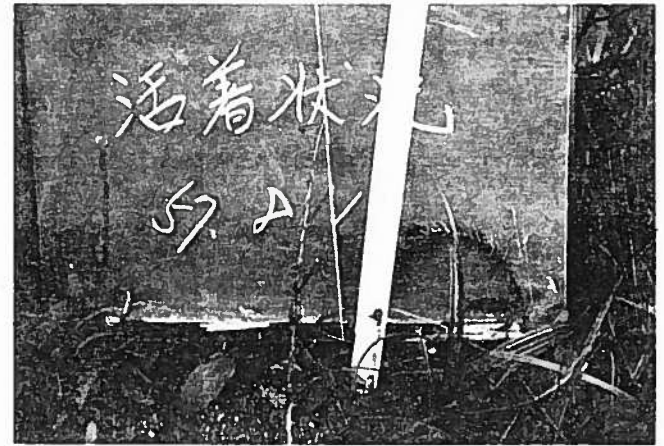
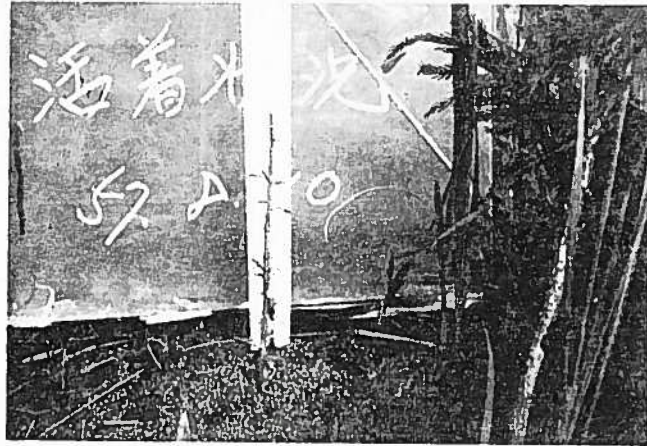


状 况 写 真

区 分 仕 意

日 田 営 林 署

(様 式 6)

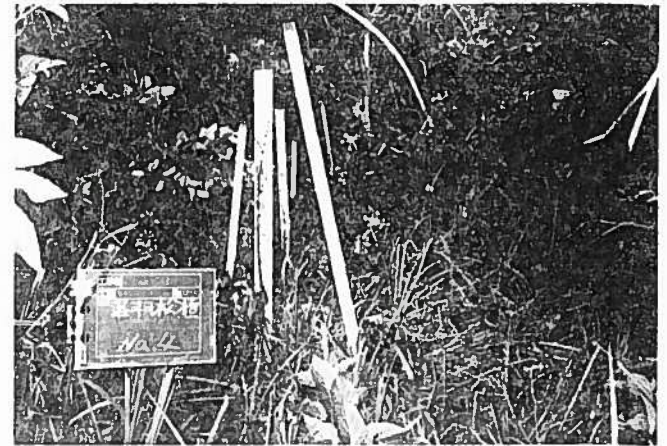
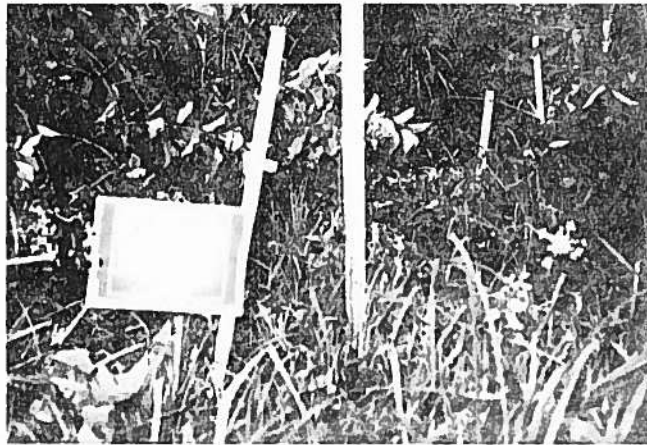
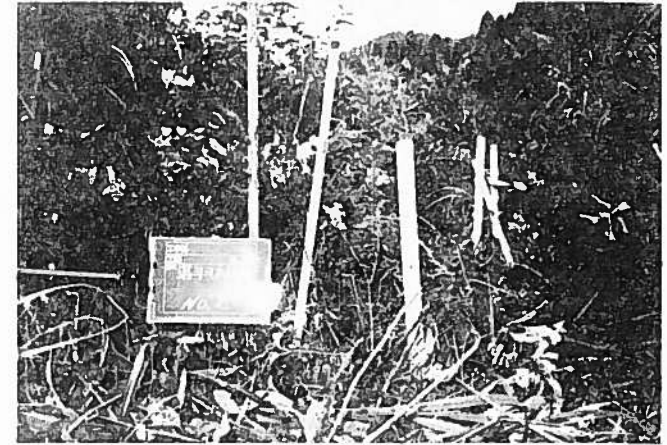
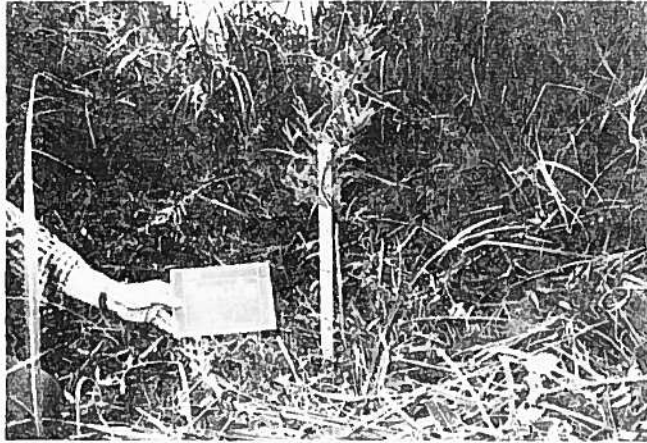


状 況 写 真

区 分 任意

日 田 宮 林 署

(様 式 6)

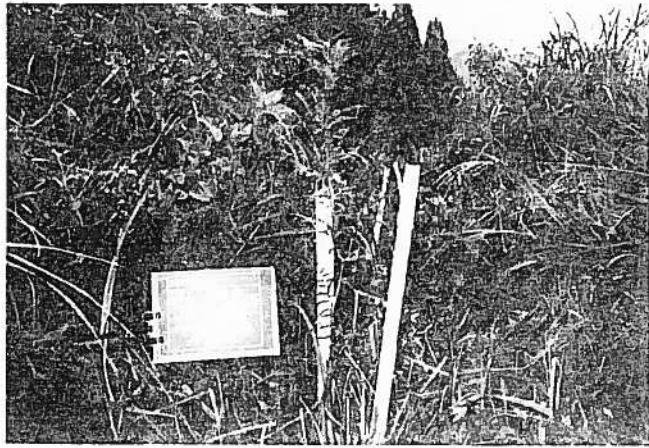


状 況 写 真

区分 任意

日田 営林署

(様式6)



試験経過記録

区分 任意

白田 管林署

(様式4)

昭和56年10月	種木得苗調査、活着率調査。 直挿し活着 0 山引苗 100% 活着 直挿しについて採種時期を失っていた(胡蝶標)にて全滅したかと思われる。 多湿の所では土壌の通気性がよくないのでから無理に行わない方が 簡易排水溝及土の必要がある。	
昭和57年3月	林木育種場にて穂木 250本採取し 袋根促進剤に1昼夜浸し挿付 簡易排水溝作設 及 土壌改良 (土の層 15cm)	
昭和57年7月	種木得苗調査 直挿 200本のうち 96本について発芽しているものの袋根しているが不明 (3本掘取りの結果 袋根なし 山引苗 2本枯死)	
昭和57年10月	種木得苗調査、活着調査、生長量調査。 直挿し 全滅 山引苗 7本活着 生長量 平均長 平均長 21系統の直挿しが失敗に終わったため多湿の所での直挿しは無理と判断する。今後には苗木養成のうえで行 (早稲農林高校に種木養成の成功例があり) 視察と実生苗の採取が必要	
昭和58年7月	生長量調査	生長量 平均長 平均長 0.8cm 1.7m
昭和58年10月	生長量調査	生長量 平均長 平均長 0.9cm 1.8m
昭和59年10月	生長量調査	生長量 平均長 平均長 82cm

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

試験経過記録

(様式4)

区分	任務
----	----

日田 営林署

昭和60年10月 中央学調査及保存(下州)
木数量 平均径 1.5 cm
樹数 107 本

昭和60年3月 (再調査)
地 帯

植 付 落羽松 139本 (購入分 100本 95;
予 考 100本 (購入分)

試験設置同の仕切り板を1列条植栽す。

記載要領

1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。

状 況 写 真

区分 休養

日 田 営林署

(様式6)



(任意課題)

昭和59年度技術開発実施報告書

日付

課 題	経 統 別 新 規	経 統	種 常 別 等 別 月 額 の 別 途	担 当	経 営 評 定 科 研 所	開 発 箇 所	小 石 原 組 込 期 間	昭和56 年 7 月	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額																																																																																			
											物件費	役務費	人件費	計	千円																																																																																			
落羽松を利用した国産材の低湿度の 有効利用(湿地帯の更新技術について)																																																																																																		
若小石原組込部材には除肥した湿地帯の200kgより現在は森林利用価値の 高い30%の地へ落羽松を植え、森林に育成して伐採する。													0人																																																																																					
目 的																																																																																																		
全 体 計 画											当 年 度 分																																																																																							
実 施 経 過											実 施 計 画		実 施 結 果		評価および普及計画																																																																																			
1. 育苗試験 1) 山引苗活着試験 2) 2.5m間苗											適正な保育管理		定員内取負の50%以下年々再 実行																																																																																					
2. 生長試験 1) 生長量試験											生長量調査を実施経過の 結果																																																																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.</th> <th colspan="3">径 級</th> <th colspan="3">長 級</th> </tr> <tr> <th>相対径</th> <th>相対長</th> <th>相対径</th> <th>相対長</th> <th>相対径</th> <th>相対長</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>-</td> <td>28</td> <td>26</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>22</td> <td>20</td> <td>0.1</td> <td>46</td> <td>49</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>-</td> <td>67</td> <td>47</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>-</td> <td>54</td> <td>48</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>20</td> <td>11</td> <td>0.1</td> <td>72</td> <td>27</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>17</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>0.1</td> <td>42</td> <td>25</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>0.1</td> <td>46</td> <td>22</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>17</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>45</td> <td>47</td> <td>0.4</td> <td>475</td> <td>575</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>											No.	径 級			長 級			相対径	相対長	相対径	相対長	相対径	相対長	1	14	14	-	28	26	18	2	22	20	0.1	46	49	17	3	25	25	-	67	47	10	4	26	26	-	54	48	14	5	20	11	0.1	72	27	15	6	17						7	10	11	0.1	42	25	13	8	11	12	0.1	46	22	13	9	17						計	45	47	0.4	475	575	100	年間平均生長量 径 0.25cm 長 140cm 平均樹高 82cm 径級 10cm (概)				
No.	径 級			長 級																																																																																														
	相対径	相対長	相対径	相対長	相対径	相対長																																																																																												
1	14	14	-	28	26	18																																																																																												
2	22	20	0.1	46	49	17																																																																																												
3	25	25	-	67	47	10																																																																																												
4	26	26	-	54	48	14																																																																																												
5	20	11	0.1	72	27	15																																																																																												
6	17																																																																																																	
7	10	11	0.1	42	25	13																																																																																												
8	11	12	0.1	46	22	13																																																																																												
9	17																																																																																																	
計	45	47	0.4	475	575	100																																																																																												

※ (課題)欄は指示、指導管理、自主、任意、創と記入する。
 目標との関連欄は選手宮林局技術開発目標(59発計第188号)により記号で記入する(例 1-(ア))

試験経過記録(その1)

日田 3月28日

課 題	落羽松の利用に因る国有林内低湿地の有効利用
1. 山引苗 7本は生育中であるか 生長量は良くなるか。	
	調査結果は別報告書のとおり
2. 道正の保育管理	
	湿地帯のわづの雑草の生長が著しく 現在年3回の刈りを 4~5回実行する必要がある。
3. 実生苗養生	
	種子を採取したので 実生苗育成に取り組む予定

(任意課題)

昭和59年度技術開発実施報告書

年度	経費別	継続	経費別 経費別 経費別	経費 一工	担当	開発箇所	日田	期間	昭和 58年度 — 昭和 59年度	予算	技術	開発	経費	品名	数量	単価	金額	
													物件費	労務費	人件費	計	千円	
道																		
目的																		
<p>湿地帯の更新技術について</p>																		
<p>湿地帯が降地として、2.83haあり、現在は森林として利用価値がある いとして、この地に落羽松を植栽し森林としての育成を促す</p>																		
全体計画			実施経過			当年度分												
						実施計画				実施結果				評価および反省計画				
<p>1. 試験地設定 2. 育苗試験 (1) 山引苗活着試験 (2) 之木得苗試験 3. 調査事項 (1) 生長量調査 4. 保育管理</p>			<p>1. 試験地設定(昭和58年5月) (1) 場所 畑5区(国有林)内 班内 (2) 面積 0.12ha 2. 育苗試験 (1) 山引苗活着試験 ア 成活率0% 2本 活着率100% イ 昭和58年5月植付 エ 昭和59年3月現在2本死亡 (2) 之木得苗試験 昭和58年度 250本 昭和59年度 200本 苗木 全部死亡 3. 調査事項(昭和58~59年度) (1) 生長量調査 山引苗 3本、58年度以降7本について 調査</p>			<p>1. 調査事項 (1) 生長量調査 2. 保育作業</p>				<p>1. 調査事項 (1) 生長量調査 2. 保育下り3回実施</p>								

課 題	新規 別 継続	継続	経常・特別別	経常	担 当	開 発 箇 所	期 間	昭和 56年度	予 算 科 目	技 術 開 発	経費	品名	数量	単価	金額																		
			目標との関連	ノ一工				昭和 65年度			物件費	調査用品		円	千円																		
目的	湿地帯の更新技術について				造林課	日田					役務費	現像, その他																					
目的	湿地帯が除地として2.83haあり、現在は森林として利用価値がなるところで、この地に落羽松を植栽し森林としての育成をはかる。										人件費	(基 礎 職 時)	()	()	()																		
											計	---			()																		
全体計画			実施経過			当年度					実施計画				実施結果		評価および普及計画																
1. 試験地設定 2. 育苗試験 (1) 山引苗活着試験 (2) 立木苗得苗試験 3. 調査事項 (1) 生長量調査 4. 保育管理			1. 試験地設定(昭和56年5月) (1) 場所 日田市厚田町有林(杉林班内) (2) 面積 0.12ha 2. 育苗試験 (1) 山引苗活着試験 ア 武雄営林署から苗木活着率100% イ 昭和59年3月 2本枯死 (2) 立木苗得苗試験 昭和56年度250本、昭和57年度200本直挿全部枯死 3. 調査事項 (1) 生長量調査 山引苗 2本、昭和58年以降2本について調査			1. 調査事項 (1) 生長量調査 2. 保育管理					1. 調査事項 (1) 生長量調査 <table border="1" style="font-size: small;"> <tr> <th colspan="2">昭和56年11月</th> <th colspan="2">昭和57年11月</th> <th colspan="2">生長量</th> </tr> <tr> <td>樹高</td> <td>樹径</td> <td>樹高</td> <td>樹径</td> <td>樹高</td> <td>樹径</td> </tr> <tr> <td>2.1</td> <td>5.1</td> <td>2.1</td> <td>5.1</td> <td>2.1</td> <td>5.1</td> </tr> </table> 2本は植栽翌年枯死したものである 2. 保育、下刈実行				昭和56年11月		昭和57年11月		生長量		樹高	樹径	樹高	樹径	樹高	樹径	2.1	5.1	2.1	5.1	2.1	5.1	
昭和56年11月		昭和57年11月		生長量																													
樹高	樹径	樹高	樹径	樹高	樹径																												
2.1	5.1	2.1	5.1	2.1	5.1																												

課 題	新規 別 継続	継 続	経常・特別別	担 当	開 発 箇 所	期 間	昭和	予 算 科 目	技 術 開 発	経 費	品 名	数 量	単 価	金 額
			目 標 と の 関 連				50 年度			物 件 費	調 査 用 品		円	千 円
			I-工	造林課	日田		昭和 65 年度			役 務 費	現像, その他			
										人 件 費	(差 臨) (差 臨) 時	()	()	()
										計	(差 臨) 時	()	()	()
目 的	日田管内で湿地帯が除地にて2,800haあり、現在森林にて利用価値が乏しい所であり、この地に落葉松を植栽し森林としての形成を図る。													
全 体 計 画	実 施 経 過	当 年 度 分												
		実 施 計 画	実 施 結 果	評価および普及計画										
<ul style="list-style-type: none"> 1. 試験地の設定 2. 育苗試験 <ul style="list-style-type: none"> (1) 山引苗若苗試験 (2) 木苗得苗試験 3. 調査事項 <ul style="list-style-type: none"> (1) 成長量調査 (2) 保存管理 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 試験地設定 (1956.5) 場所: 宇治原 11ヶ所 跡内 面積: 0.12ha 2. 育苗試験 <ul style="list-style-type: none"> (1) 山引苗若苗試験 武雄署で9ヶ所採取し、1956.5 植付し全部若苗1ヶ所 2ヶ所植栽 (2) 木苗得苗試験 1956年度 250ヶ 1957年度 200ヶ 採取し直挿し初め全部植栽 3. 調査事項 1959年度以降 山引苗7ヶ所 成長量調査 4. 保存管理 山引苗7ヶ所 7.20ヶ所 試験地 1ヶ所 保存(1ヶ所) 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 成長量調査 2. 保存 (1ヶ所) <p>変更地でも従来の育苗試験 (1.21.19)に7.2は得苗が 整ったので年度以降は計画は</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 成長量調査 山引苗7ヶ所 7.20ヶ所 若苗若1ヶ所 1ヶ所 2. 保存 (1ヶ所) 職員2名 1ヶ所 実行 											

昭和61年度技術開発実施報告書

熊本管林局

(任意課題)

課 題	新規 別 継続	新規	経常・特別別	経常	担 当 課	開 発 箇 所	日 出 間	期 間	昭和(56) 61年度 ～ 昭和 65年度	予 算 科 目	造 林 費 (育 林)	経費	品名	数量	単 価	金 額
			目標との関連	1～I												円
		湿地帯の更新技術について										物件費	調査用品			
												役務費	現像、その他			
												人件費	(基 臨 時 職)	() 4		(~)
												計	～			(~)
目的	湿地帯が2.83haあり、現在は森林として利用価値がないところで、この地に落羽松を植栽し森林としての育成をはかる。															
全 体 計 画	実 施 経 過	当 年 度														
		実 施 計 画	実 施 結 果	評価および普及計画												
1. 昭和56年度から実施してきたが、全体計画を下記のとおり変更し実施する。 2. 試験地設定 (1) 地拵 (2) 植付 (3) 落羽松 100本 スギ 100本 3. 育成試験 (1) 署養成苗活着試験 4. 保育管理 5. 調査事項 (1) 活着率調査 (2) 生長量調査		1. 調査事項 (1) 生長量調査 2. 保育管理	1. 当年度実施計画は取止め、下記のとおり実施した。 2. 試験地設定 (1) 場所 加戸国有林11に林小班 (2) 面積 0.12ha (3) 樹種 落羽松 104本 落羽松 100本 スギ 100本 本購入 落羽松署養成 35本 3. 植付 落羽松 139本 スギ 100本 を交互に列状に植栽する。													

湿地帯の更新技術について

1. 試験地設定

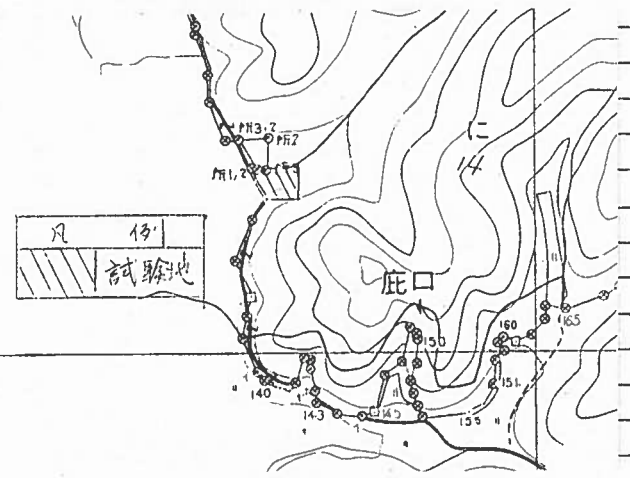
- (1) 場所 畑ノ尻 国有林 11に林小班
- (2) 面積 0.12ha

(3) 樹種 落羽松 民有購入 104本 落着成 35本 計 139本
 スギ 民有購入 100本

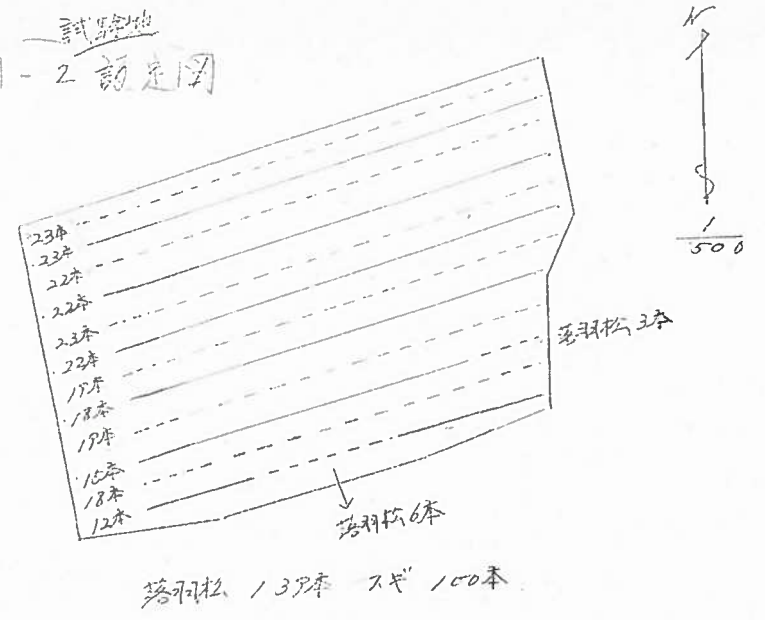
2. 植付の方法

落羽松 139本 スギ 100本 を 1列おきに交互に植栽
 を行った。

図-1 試験地位置図



試験地
 図-2 設定図



3. 考察

昭和59年度排水溝を^{3.0m}作設した結果^{3.0m}蘆葦が繁茂してきたので
 昭和61年度より改めて試験地を設定し、落羽松 139本 スギ 100本
 を設定図のとおり 1列ごと交互に新植した。今後毎年生長を
 観察して行く。

なお 昭和60年度以前の試験地については調査と取り止めを
 とにした。

技術開発課題完了報告書

課題名	湿地帯の更新技術に関する					
課題区分	任意	開発期間	55~56	担当	造林課	
目標	湿地帯(0.10ha)に落羽松を植栽し、森林としての育成を図る					
結果	昭和55年5月に設営、落羽松、直挿、240本定植。育成調査の結果、12本のうち8本が活着し、生育2-3mの目標に達している。					
	昭和56年3月に落羽松10本、杉10本の苗木を購入し、交互に定植。植栽1年、活着率(90%)も高く今後の生育を見事にしている。					
実施及び作業の内容	項目	内容	項目	内容	項目	内容
	伐採の方法					
	樹種					
	林齢	年				
	胸高直径	cm				
	樹高	m				
	4m当たり本数	本				
	材積	m ³				
内容	造林地の中、ある湿地帯での研究であり、調査					
開発経過と調査内容						
昭和55年5月		設営、設営、地務、植付挿付				
7月		保育(下川)				
10月		活着率調査				
昭和57年3月		再度設営、排水溝作設、苗木挿付				

昭和57年8月	保育(下川)活着率調査
10月	活着率調査
昭和58年10月	保育(下川)活着率、活着率調査
昭和59年10月	
昭和60年10月	
昭和62年3月	再度設営、地務
	落羽松、109本、杉100本植付
昭和62年4月	植付時の苗木調査
昭和62年9月	保育(下川)活着率、活着率調査
昭和62年11月	現況写真撮影
評価及び普及指導	
昭和57年、簡易排水溝(約70m)を設け、5年後、毎年設営、水の着着率、生育状況等について調査し、行方一見、森林としての育成を確認。結論として、湿地帯(湿地に流水が流れる)に落羽松の更新は、果ては、理の如く、思われる。	

試験経過記録

区分 任意

白田 営林署

(様式4)

昭和56年10月	<p>柳木得苗調査、活着率調査。 直挿し活着 0 引苗 100% 活着 直挿しについては採根時期を失っていた(5月採根)にて全滅したかと思われている。 多湿の所では土壌の通気性が低いため、これから無理な生育はできず、簡易排水溝及び土壌改良の必要がある。</p>
昭和57年3月	<p>林木育種場にて穂木 250本採取し 袋根促進剤に1昼夜浸し挿す 簡易排水溝作設及び土壌改良(土壌層 2.5cm)</p>
昭和57年7月	<p>柳木得苗調査 直挿 200本のうち 96本については発芽しているものの袋根しているが不明 (3本掘取りの結果袋根なしの引苗 2本枯死)</p>
昭和57年10月	<p>柳木得苗調査、活着調査、生長量調査。 直挿し 全滅 引苗 7本活着 生長量 平均長 平均長 21年続けた直挿しが失敗に終わったこと、多湿の所での直挿しは無理と判断される。今後の苗木養成の方針を (早稲農林高校に柳木苗木養成の成例例があり視察と果生苗の採取が必要)</p>
昭和58年7月	<p>生長量調査 生長量 平均長 平均長 0.8cm 5.7cm</p>
昭和58年10月	<p>生長量調査 生長量 平均長 平均長 0.9cm 6.8cm</p>
昭和59年10月	<p>生長量調査 生長量 平均長 平均長 82cm 1.0cm</p>

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

試験経過記録

(様式4)

区分 任意

日田 営林署

昭和62年12月 中老学調査(任意)
 中老学 平均長 1.5 m
 樹高 1.07 m

昭和62年3月 (再設置)
 地 持

植 付 落羽松 139本 (購入分 104本)
 杉 100本 (購入分)

試験被追用の比割交互に別株植栽あり。

昭和62年4月

植付時苗木調査

	本数	平均長	平均長
落羽松	139本	5.73 m	49.58 cm
杉	100本	8.69 m	72.52 cm

昭和62年9月
 ・中老学調査
 ・落羽松調査
 ・保存(別)是行

	本数	割合	平均長 (中老学)	平均長 (中老学)
落羽松	131本 (139本)	94%	6.76 m (1.03)	54.14 cm (9.55)
杉	95本 (100本)	95%	11.11 m (2.92)	83.09 cm (47.57)
落羽松	6本 (残り分)	-	2.57 m	134.67 cm

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

状 況 写 真

区分 任意

白田 富林署

(様式6)

(全 体)



(米 況)